

3 1章 MCGグループがめざす姿

22 2章 持続的な成長戦略

23 執行役・執行役員一覧

24 経営方針「Forging the future 未来を拓く」に基づく実行計画

31 CFOメッセージ

事業戦略

34 ビジネスグループ所管メッセージ

35 スペシャリティマテリアルズ

39 産業ガス

40 ヘルスケア

41 MMA

42 石化・炭素

43 チーフサプライチェーンオフィサーメッセージ

Innovation

44 CTOメッセージ

45 イノベーション戦略

47 知的財産戦略

デジタル

48 CDOメッセージ

49 デジタル戦略

52 チーフストラテジーオフィサーメッセージ

53 経営方針の社内浸透

56 3章 ESGの強化

95 4章 財務・非財務情報

事業戦略

石化・炭素

事業基盤の強化とカーブアウトのプロセスを推進

三菱ケミカルグループの事業のうち、現状、多量のCO<sub>2</sub>を排出しているのが石化・炭素事業です。これらの事業にはカーボンニュートラル達成に向けて、将来的に大規模な環境投資が必要と考えています。また、国内の石化・炭素需要が減少し、中国企業の台頭もある中、供給過多の状況が続いています。このような環境下で、サーキュラーエコノミーや競争力強化のためにビジネスモデル変革の取り組みをそれぞれの事業で進めています。同時に、2023年度以降のカーブアウトに向けたプロセスも進行中です。

2021年度実績

EBITDA (億円)	1,081
EBITDAマージン	11%
コア営業利益率	7%
ROIC	11%

(注)ジョイントベンチャーのコア営業利益は約400億円、当期純利益は約200億円、出資比率は50%と想定

石化事業のジョイントベンチャー化による事業価値向上

- 迅速かつ集中的な意思決定
- シナジー効果によるコスト構造改善とマージン拡大
- 事業ポートフォリオと資産の評価・最適化
- GX(グリーン・トランスフォーメーション)とサーキュラーエコノミーに向けた新技術による成長
- 収益化に向けた価値向上と健全なポジションの確立

炭素事業のビジネスモデル変革

鉄鋼業界の構造変化に伴い当社グループの香川事業所における高炉向けコークス事業について、これまでに生産・販売体制の最適化に向け以下の構造改革を実施してきました。当社のコークスは、その品質の均一性・安定性の高さから「SAKAIDE COKE」として海外の顧客にも高く評価されています。今後も高品質なコークスの安定供給に努めていきます。

海外輸出展開型へのビジネスモデル変革

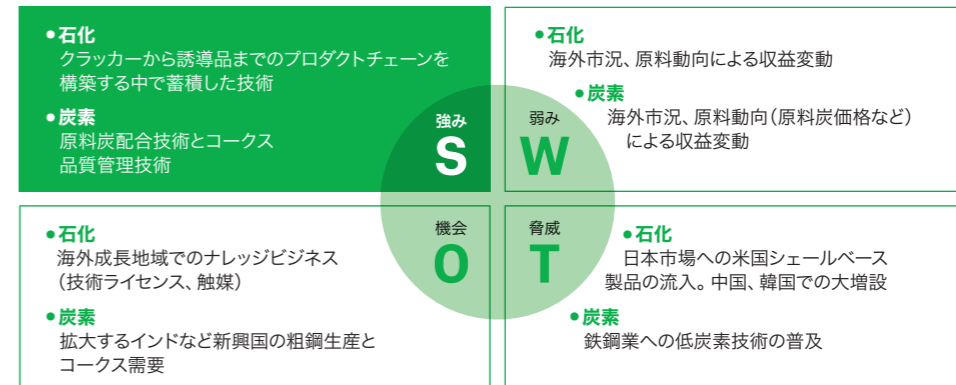
国内鉄鋼業界における構造変革の動向

- 2023年までに国内高炉25基のうち5基を休止(900万トン/年の粗鋼生産減に伴う400万トン/年のコークス需要減)

当社グループコークス事業の構造改革

- 香川事業所コークス炉323門を250門に縮小、最適運転体制へ
- 輸出处荷設備を1ラインから2ラインへ増強

SWOT分析



カーボンニュートラル達成のため、石油精製産業や近隣地域の連携を強化

当社グループでは、2050年のカーボンニュートラル達成をめざし、国内事業所・工場におけるエネルギー転換や、植物由来原料を用いた基礎化学品(エチレン、プロピレンなど)の事業化検討などを進めています。茨城事業所では、ENEOS(株)と共同で国内最大規模となる年間2万トンの処理能力を備えた廃プラスチックの油化を行うケミカルリサイクル設備を建設中で、2023年度中の稼働開始をめざしています。

茨城県内に位置する鹿島臨海工業地帯は、石油精製、石油化学、鉄鋼の基礎素材産業を中心とした国内有数の産業集積拠点です。この工業地帯を中心に、今後、茨城県と当社グループがより密接に連携・協力し、競争力とカーボンニュートラルを両立した産業拠点の創出をめざします。

鹿島臨海工業地帯におけるカーボンニュートラルへの取り組み

